

## 第7章 施設・設備等

**【到達目標】** 大学には、教育研究組織の規模に応じた、必要かつ十分な広さの校地・校舎を準備すると共に、適切な施設・設備等を整備し、それらを有効活用することが求められている。聖学院大学では、校地・校舎は設置基準を満たしていることは勿論であるが、本学の教育研究活動が有効に実現される場として、常に充実に向けて改善される必要がある。また、キャンパス・アメニティの形成・支援のため、常に学生の実態と意向を把握し、適切な修学環境の整備・充実、並びに福利・厚生 of 改善に取り組んでいかねばならない。さらには、地域に開かれた大学として、安全面や管理面に十分配慮した上で、施設の積極的な開放を進めていく。

以上の聖学院大学が掲げる目標を踏まえて、ここでは以下に示す点を特に意識した点検・評価を行う。

- ① 大学の理念や学部・学科の教育目標を実現するために必要な施設・設備は整備されているか。
- ② 施設・設備等の整備は、学術研究の進展や技術革新、さらには社会的要請の変化を的確に把握し、常に更新・充実されているか。
- ③ 学生のための生活の場、コミュニケーションスペースの確保・充実は適切に行われているか。

### 1 施設・設備等の整備

#### 1) 施設・設備等諸条件の整備状況

(A群:大学・学部等の教育研究目的を実現するための施設・設備等諸条件の整備状況の適切性)

**【現状の説明】** 校地は、JR大宮駅からそれぞれ1駅先のJR高崎線宮原駅、JR埼京線日進駅から徒歩15分の埼玉県上尾市戸崎1番1号に所在し、近隣には大宮花の丘農林公園があり、校舎は緑豊かな自然に囲まれている。本学は大学院、総合研究所を含めて、3学部6学科、3研究科、1総合研究所を有する単一キャンパスである。キャンパスには全体で3,077名(学部生2,992名、大学院生68名、聴講生・科目等履修生17名)の学生が学ぶ施設が整備されている。また、法人併設の聖学院みどり幼稚園も隣接している。

校地面積は65,307m<sup>2</sup>、校舎総面積は27,348m<sup>2</sup>である。校地は、学生1人当たり面積21.82m<sup>2</sup>、校舎は9.14m<sup>2</sup>となり、ともに大学設置上の基準を満たしている。

校舎は、大学開学以後、大学院研究科・学部・学科の増設・改組転換や定員増等に伴って新・改築が継続して行われてきたが、特筆すべきことは、2003年度には女子聖学院短期大学時代からの念願であった礼拝・講堂棟の建設に着手し、2004年度秋に、北キャンパスに入学式・卒業式や各種講演会等で利用できる1,000人収容可能なチャペルと、その付属棟としてエルピス館(エルピスホール・インターネットカフェ・学生食堂等)、

ヴェリタス館（教授会室(大教室)・学長室等)、緑聖ホール（各種集会場）を総額約 30 億円の費用をかけて建設したことである。同時にディサイプル館（旧 5 号館）を大学管理部門の事務所と普通教室に改修し、シャローム館（旧 6 号館）は食堂専用であった建物を保健室と学生相談室に改修した。また、以前は 1 階に管理部門の事務所が置かれ、2～4 階が総合図書館であった旧本館は、管理部門の移転によって 2005 年度の夏に 1 階を改修し、全ての階を総合図書館（一部、大学院研究室）とし、建物名称も本館から図書館棟とした。

校地面積

校地面積 (m <sup>2</sup> )	学生1人当 面積(m <sup>2</sup> )	校舎面積 (m <sup>2</sup> )	学生1人当 面積(m <sup>2</sup> )	運動場 (m <sup>2</sup> )	学生1人当 面積(m <sup>2</sup> )	付属施設
65,307	21.82	27,348	9.14	28,328	9.47	クラブハウス ゲストハウス

校舎面積

校舎名	面積(m <sup>2</sup> )	校舎名	面積(m <sup>2</sup> )
1号館	4,840.25	8号館(研究棟・学務部)	3,349.81
2号館	4,135.01	図書館棟(旧本館)	2,419.86
3号館	684.85	チャペル	2,444.01
4号館	2,899.62	エルピス・ヴェリタス館	1,785.52
ディサイプル館(旧5号館)	842.94	体育館	1,578.08
シャローム館(旧6号館)	189.87	その他の施設	576.89
7号館	1,601.43		
		合 計	27,348.14

教育用施設・設備としては、1・2・3・4・7号館、及びディサイプル館3階に普通教室、うち1・2・4号館には普通教室及び特別教室（PC室・音楽室・美術教室等）がある。2000年度には、図書館に障害者への配慮のためにエレベータが設置され、3階以上の建物でエレベータ未設置の建物は1号館（地上5階、地下1階）のみとなった。

学生食堂は1号館地下1階に学生ホール・食堂（435.67m<sup>2</sup>）とそれに付設する軽食堂（158.48m<sup>2</sup>）があり、4号館1階には学生ホール・食堂（405.75m<sup>2</sup>）が整備されている。学生食堂は、従来昼食時の混雑緩和が緊急の課題となっていたが、2004年度にエルピス館1階に学生食堂（390m<sup>2</sup>）を、2階には学生の自由利用が可能なエルピスホール（140m<sup>2</sup>）、及びインターネットカフェ（130m<sup>2</sup>）を新設したことにより、それまで問題となっていた昼食時の食堂の混雑は大幅に緩和された。

さらに、ヴェリタス館には院長室、学長室、学長会議室及び教授会室が設置されている。この教授会室は収容人員が100名であり、LAN接続用の端子やビデオプロジェクターなどを設置し、教授会だけでなく、授業や小規模の講演会等にも使用される。また、エルピス館、及び4号館の学生ホール・食堂には電子掲示板を設置し、学生への情報として、施設の案内や休講等の情報を掲示している。

第7章  
施設・設備等

講義室に関しては、下記の表のとおりであり、本学の掲げる少人数教育の理念に沿った規模の教室を中心に配置している。

収容人員別教室数一覧(学部)

収容人員	教室数	収容人員	教室数
1～20	19	121～150	5
21～50	16	151～200	2
51～80	11	201～250	1
81～100	16	251～300	1
101～120	7	301～	1

教室に付帯する設備としては、大合同講義室・合同講義室（80名以上の規模）にはP  
CやDVDを接続して利用可能な大型プラズマディスプレイ装置やビデオプロジェクタ  
ーが設置され、またそれ以外の殆どの小規模教室にはテレビ・ビデオ・DVD、または  
ビデオプロジェクター等が備えられている。その他ビデオ教材は図書館閲覧室に備えら  
れており、学生の自主視聴が可能となっている。

また、本学においては、「コンピュータ基礎A」・「コンピュータ基礎B」が全学生の  
必修科目となっており、本講座の実施に伴い、学生が学内での授業や自習において学内  
のコンピュータ機器を自由に使用できるよう、徐々にコンピュータが利用可能な教室等  
を増設した結果、現在マルチメディアスタジオが2教室、情報演習室が2教室、及びコ  
ンピュータ教室が3教室となり、情報化社会への対応に必要な学生のための利用環境を  
整えている。

専門分野の教育設備に関しては、人間福祉学部児童学科、同人間福祉学科の2学科は、  
学科の性格上、他と異なる施設・設備を必要としている。児童学科の音楽室、ピアノ演  
習室、美術教室、自然科学教室やリズム活動等に使用される多目的ホールなどがそれ  
である。人間福祉学科では、演習室、実習指導室を設置している他、介護実習室を整備し、  
ベッドや介護用バスタブ、電動入浴用ストレッチャー等の介護用諸備品を設置している。

体育施設としては、屋内施設として体育実技室1・2階で合計1,102.1m<sup>2</sup>、屋外運動  
場は28,328m<sup>2</sup>の広さを持ち、学生1人あたりの面積は9.47m<sup>2</sup>となっている。

キャンパス内には、随所にベンチや自動販売機等を設置して学生の憩いの場を提供し  
ている。また、車の駐車場に関しては、2000年度より学生バスが最寄りの2駅より定期  
運行されたことにより、学生のための駐車スペースは学内には設けず、外部者、及び教  
職員のみ利用を許可している。その他、自転車通学の学生のために、駐輪場を学内に  
3箇所設置している。

研究棟として1998年に新築した8号館は、1階の学務部門事務所215.92m<sup>2</sup>と教員・  
学生用ラウンジとして使用されるガルスト・ホール187.17m<sup>2</sup>を除き、2～7階の93室

は個人研究室であるが、近年大学院の整備充実に伴って、2号館の4階5教室も研究室として使用している。研究室各室の平均面積は20.07m<sup>2</sup>であり、全室に情報コンセントが配置され、各室に整備されたパソコンは学内LANで結ばれている。空調は各室での単独運転が可能であり、5階の共同印刷室にはコピー機と印刷機が設置されている。

また、体育科教員や音楽科・美術科教員、自然科学実験室を使用する教員には、研究室とは別に準備室が用意されており、体育科教員用には体育館内に36m<sup>2</sup>、音楽・美術関係・自然科学関係の教員にはそれぞれ各特別教室に隣接した42m<sup>2</sup>が準備室として充てられている。

大学院政治経済学研究科、アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科及び人間福祉学研究科の諸設備は主として3号館と1号館とにあり、研究室・講義室・院生研究室等が設置されている。また、埼玉県的所有する「産学交流プラザ 彩の国8番館」の一部を聖学院大学教室として借り、大学院政治政策学研究科の「埼玉地域政策研究」「聖学院ポリシー・カレッジ」の教室として使用している。また東京都北区中里の聖学院本部新館を「聖学院大学・大学院生涯学習センター」として、大学院コロキウムの教室としてアメリカ・ヨーロッパ文化学研究科の演習のその他の教室として使用している。

**【点検・評価】** 学生食堂の昼食時の混雑緩和が緊急の課題となっていたが、北キャンパスにインターネットカフェ、エルピスホール、学生食堂を設置したことで設備が充実し、昼食時の食堂の混雑が緩和された点は評価できる。しかし、カリキュラムや授業科目の充実、少人数クラスの増大に伴い、一般教室は慢性的に不足する傾向となっており、早急に対処する必要がある。また、2006年度入学の児童学科の学生から小学校教諭一種免許が取得できるようになったため、それに伴う施設・設備の充実が喫緊の課題である。

**【課題・方策】** 2004年度の礼拝・講堂棟、及び周辺付属棟の建設に伴い、設備が充実して昼食時の食堂の混雑は緩和されたが、授業等の充実に対応するため、教育教室棟の増築など、早急に設備計画を構築する必要がある。当面は、建物としては女子聖学院短期大学時代より継続使用している1号館の改築について、5～10年以内には実施する予定であるが、キャンパス・アメニティを含めたキャンパス全体としての将来構想との関連でその詳細な計画についての議論を継続していく予定である。また、本学はプロテスタント・キリスト教の伝統に即してなされる礼拝を生命的な源泉として重視しており、2008～2010年には大学創立20周年事業としてチャペルにパイプオルガンを導入することが計画されている。

なお、現在の学生の課外活動のためのクラブハウスはプレハブ等、簡易建物を使用しており、決して良い環境とは言えない状況であるため、学生のための会館として学生厚生棟の新設が計画されている。これについても、1号館の改築とは別に、大学として早急に取り組むべき課題として、キャンパス将来計画の中で具体的な建設の時期などが検討されている段階である。大学における施設・設備に関する中長期的な計画の具体的実

第7章  
施設・設備等

施案の構築が急務であるが、財政的な問題を含めて今後大学構成員に明確に示していく必要がある。

2) 教育用情報処理機器などの状況

(B群:教育の用に供する情報処理機器などの配備状況)

【現状の説明】 本学における情報処理機器の配備状況は次のとおりである。以下に挙げるのは、特に高度な情報処理機器を配備した教室の概要で、これ以外にも各教室にプロジェクター、プラズマディスプレイを整備し、DVD・VHS・PCあるいは実物投影機等の利用が可能となっており、中規模以上の教室ではほぼ配備が完了している。これらによって、普通教室でも情報機器を用いた授業が可能である。これ以外にも、貸出用のPCやポータブル実物投影機等が教務課に常備されており、適宜貸出を行っている。

学生利用情報処理機器の主な整備状況

(単位:台)

教室等	PC台数	機能概要	その他
1306(PC教室)	43	LL機能有	PC補助員常駐
2103(マルチメディアスタジオ1)	1	マルチメディア機器常備	無線LAN機能により貸し出しノートPCを利用可
2105(PC演習室)	78	Eラーニング環境、サーバー3台(ファイル、エンコーディング、ストリーミング)	ノートPC75台:他教室でも利用
2108(マルチメディアスタジオ2)	1	マルチメディア機器常備	無線LAN機能により貸し出しノートPCを利用可
2109(PC演習室)	40	パソコン基礎科目自主学習専用	講師、学生チュータ常駐
4202(PC教室)	43	LL機能有	PC補助員常駐
4205(PC教室)	41	LL機能有	PC補助員常駐
図書館	60		内、ノートPC20台(無線LAN機能付)
キャリアサポートセンター	10		
大学院生研究室	10		
インターネットカフェ	6		
合計	333		

【点検・評価】 近年、情報処理機器を高度に活用した授業が急増しており、機器の配備状況は決して十分とはいえない状況となりつつある。現在の情報化社会の中で、今後ますます教育面での活用が進めば情報処理室や機器が不足することも十分予想されるので、設備面の更なる改善が必要である。現在の学生利用PCの更新は、3～4年をめどに定期的に行われており、この面では、情報処理機器は常に最新に近い状態に保たれているとすることができる。また、本学では「何時でも、何処でも」というコンセプトで、学内からであ

ればあらゆる場所から学内のネットワークやインターネット接続が可能となるよう無線LAN環境を整えたが、近年、情報漏えいやネットワークウィルスなどセキュリティの観点からネットワーク全体の見直しを行っている段階である。

**【課題・方策】** 情報化社会の進展に対して、学生のための教育用コンピュータ環境の構築及び教育サポートを中核的に担う組織・施設が本学では十分とは言えない。現在は、教員組織によるコンピュータ情報ネットワーク委員会、及び事務組織として学務部情報システム課がその役割を担っているが、情報システム課は学内の通信インフラの整備や管理などの業務も行っており、教育サポートを専門的に担う組織としての情報センターの設置に向け、具体的な機能等の検討を開始している。また、現在携帯電話やPDAなど、様々な機器が情報処理機器として登場して来ており、中期的な計画を常に見直しながら臨機応変に対応できるよう対処していく必要がある。

### 3) 施設・設備の社会への開放

(C群: 社会へ開放される施設・設備の整備状況)

**【現状の説明】** 本学は社会・地域に開かれたキャンパスとして、地域社会に対して安全面に十分配慮して施設の開放を行っている。図書館は平日21時30分まで開放しているため地域の社会人の利用も多い(2006年度外部利用登録者数272人)。学会、研究会、地域住民に対する聖学院大学公開講座や彩の国いきが大学における施設使用、近隣の自治会の会合、NPOによるホテル祭り、近隣高等学校・中学校の夏期講習、近隣中学校等の講演会開催によるチャペル使用、または各種資格検定試験や予備校等の試験時への施設貸与など、多岐にわたって校舎を開放している。予備校や高等学校等に対しては内規を定めて貸与を行っている(巻末資料9)。

また、近隣の自治会や子供会などのソフトボールチームの練習やボーイスカウトなどにもグラウンドや体育館を貸与している。学校休業日の校舎使用の許可については、常駐するビルメンテナンス会社に貸与の業務を委託して行っている。

**【点検・評価】** 対外的に施設・設備を積極的に貸与することは、大学として社会的な貢献を果たすと同時に、大学施設・設備の有効利用という面から評価できるものである。さらに、この結果として近隣地域の大学に対する認知度が上がることとなり、社会・地域との良い協力関係構築にも役立っている。なお、外部の業者等への校舎等の貸与は明文化してルールも定めているが、近隣のソフトボールチーム等への貸出についてもルールを定めて行う必要がある。

**【課題・方策】** 本学の基本方針として、地域との連携協力は最重要課題の一つであり、その観点からも学内施設・設備等の開放は、引き続き柔軟な対応を取ることで開かれた大学をアピールしていくことが重要である。このように、本学は社会・地域に開かれた大学ではある

## 第7章 施設・設備等

が、開放されているがゆえに、不審者侵入等への対応が重要となっている。しかしながら、現時点では不審者侵入等への対策が十分とは言えず、対応策の構築は検討課題となっている。また、予備校や資格取得試験会場としての校舎の貸与時には、受験生関連の送迎によって大学付近の交通は非常に混雑し、近隣への迷惑ともなっている。それを解消するためには、学内の教育活動に支障がない範囲で、駅から大学までの学生送迎バスの利用も含めて予備校に貸与するなどの方策について検討を行っている。

### 4) 記念施設・保存建物の状況

(C群: 記念施設・保存建物の保存・活用の状況)

**【現状の説明】** 学校法人聖学院は、創立 100 周年記念事業の一環として、2004 年度に本学キャンパスに礼拝・講堂棟、並びにその他付帯施設の建設を行った。これは本学の前身でもある女子聖学院短期大学時代からの念願でもあった。この礼拝・講堂棟は、彩の国さいたま芸術劇場や東京大学弥生講堂を設計した香山壽夫氏(東京大学名誉教授)により設計され、2006 年度日本芸術院賞受賞の対象作品となった。礼拝・講堂棟は、次の 3 つの施設に分かれている。

- ① 礼拝・講堂棟 (チャペル)
- ② 附属棟 1 (エルピス館・ヴェリタス館)
- ③ 附属棟 2 (緑聖ホール)

①の礼拝・講堂棟は、学生の日常の礼拝、イベントや講演、コンサート等に活用されており、正面入り口脇には女子聖学院短期大学記念室を設置している。②の附属棟 1 のエルピス館にはインターネットカフェと食堂、エルピスホール等があり、学生の憩いの場となっている。ヴェリタス館には院長室・学長室・教授会室等を配置している。③の附属棟 2 (緑聖ホール) は大学における各種小集会に利用される他、日本キリスト教団緑聖教会が日曜日の集会等に利用している。

上記の他、8 号館 1 階には日本最初のディサイプルス派宣教師であったチャールズ・E・ガルスト (1853 年～1898 年) を記念した、ガルスト・ホールを設置し、教員同士の交流や教員と学生の交流の場となっている。

**【点検・評価】** 本学は創立 20 年に満たない新設の大学であるため、保存すべき施設や建物は未だ多くはない。しかし、本学の礼拝・講堂棟が完成し、日本芸術院賞受賞の対象となったことから、本建物の今後の管理には十分な注意を払っていく必要がある。そのため、メンテナンスに際し費用の負担が増大することが予想されるが、特別予算枠の設定などについて検討が必要である。